



うめきたからベイエリアまでをつなぐ、 画期的な交通手段、 LRT(新型路面電車)を提案!



酒井豊議員(福島区選出)は、3月4日に開かれた2月定例府議会の本会議で一般質問に立ち、LRT(新型路面電車)についての取り組み状況や「北港トラム構想」の提案に対する見解を求め、また阪神なんば線「淀川橋梁」のかさ上げ問題などについて質問しました。

低コストで確保できる画期的な交通手段LRTの取り組み状況を伺う

Q. 酒井議員 高齢化の進展やまちの活性化を考えると、都市の交通体系のあり方を見直さなければならない時に来ている。こうしたなか、気軽に乗り降りでき、地下鉄と比べると10分の1で建設できるという実現性の高い画期的な交通手段、LRT(新型路面電車)に強く期待している。「グランドデザイン・大阪」(*)で示された、天王寺・なんば間や御堂筋等のLRT構想はぜひ推進してもらいたいが、現在の取り組み状況は。

(※「グランドデザイン・大阪」は、変化に対応し、躍動する大阪の今後の方向性を広く世界に発信するために策定された。2050年を目標とする大都市・大阪の都市空間の姿を示している。)

A. 住宅まちづくり部長 御堂筋の全面みどり化やLRTを見据えた都市構造の転換に向け、自動車交通の処理をどうしていくのか、昨年度は御堂筋の交通量等にかかる調査を実施した。御堂筋や堺筋等の南北主要幹線道路の交通量は約20年間(平成2年から平成22年)で約2割減少しており、人中心の都市構造への転換は可能であることが判明した。また、御堂筋を人に解放するための取り組みとして、御堂筋の側道を閉鎖する社会実験を行っている。



【提案】北港トラム構想と、御堂筋LRTの接続

此花区民の悲願「もっと身近に便利に 利用できる交通機関を」に応える、 LRT「北港トラム構想」への見解は?

Q. 酒井議員 此花区では、南側にJR桜島線が通っているだけで公共交通は大阪駅に接続する3系統のバスのみであり、これからの時代を見据えるとLRTこそが格好の交通手段ではないかと思う。うめきたから野田阪神を經由し、北港通りを通してUSJ・ベイエリアに至るLRTの実現、「北港トラム構想」(仮称)を提案したい。御堂筋のLRTとも接続できれば大阪の中央部と天王寺までつながる一代ネットワークが形成できる。ぜひ検討に加えていただきたいが、見解を伺う。

A. 住宅まちづくり部長 酒井議員ご提案の「北港トラム構想」は、全ての方々が利用しやすく、環境や景観にも配慮された地域の交通ネットワークを形成し、定住魅力を創造するとともに、「人」中心の都市空間の創造にもつながる素晴らしいアイデアだと考えている。しっかり研究する。

防災対策と都市整備

阪神なんば線淀川橋梁のかさ上げ問題、 今こそ強力な取り組みを

Q. 酒井議員 淀川の下流域に架かる阪神なんば線「淀川橋梁」は、老朽化に加え、橋梁の橋げたが低く大雨の際には洪水の恐れがあるなどの弱点がある。かねてから「淀川橋梁」のかさ上げ問題は西淀川区及び此花区等の湾岸・西大阪地域の最重要課題のひとつであり、10力年の震災・津波対策も決定された今こそ、強力な取り組みを進める必要があると考えるが、都市整備部長の見解は。

A. 都市整備部長 本事業は国が調査を進めているが、大規模事業であることから、国、大阪市及び阪神鉄道株式会社の3者により、事業実施に向けた調整が進められているところ。災害対策に対する機運が高まりをみせるこの機を逃さず、関係機関に対して強力に働きかけてまいります。

正蓮寺川の防潮堤撤去について

Q. 酒井議員 正蓮寺川のバラペット(コンクリート擁壁)は、現時点では高潮対策としての必要があると聞いているが、陸地化(*)が終われば無用の長物となる。将来の公園利用を考えると、バラペットで囲まれた状態は全く意味がない。公園の利便性や周辺住民の安心・安全面からも撤去すべきだ。

地域の大事な河川空間、 六軒家川を親水公園化へ

Q. 酒井議員 六軒家川について防潮堤の液状化対策を平成30年度までに完了させることになっているが、都会の貴重なオープンスペースでもあり(川幅60m、延長1.2km、面積7.2ha)、地震の際には火災の延焼を食い止める役割も果たす。埋め立てて活用すべきとの声もあるようだが、六軒家川は地域の大事な河川空間として、長期的な視点で親水公園の整備など、有効活用するための検討を行うべきだ。

A. 都市整備部長 河川空間の活用については、川沿いのまちづくりと一体的に取り組む必要があると考えている。六軒家川についても、地域からの具体的な提案に対しては河川管理者として協議に参画する等、協力してまいります。



A. 都市整備部長 大阪市が平成30年度末を目標に整備を進めている此花下水処理場ポンプ場が完成するまでバラペットは必要だが、完成後、撤去等の検討がなされる場合は市と協議してまいります。

(※阪神高速道路淀川左岸線の整備に伴い、正蓮寺川水門より上流側は陸地化し、その後、公園整備が進められる。)

特別区設置協定書について 特別区で何がかわるのか?

Q. 酒井議員

「特別区になって私たちのまちがどうなるのか」とよく聞かれるが、特別区設置協定書のどこにもそのようなことは書かれていない。湾岸区になって、此花区は具体的にどう変わるのか、また何をどう変えようとしているのか。

A. 大都市局長

区民に選ばれた区長と区議会が住民の意見を身近に聞きながら、サービスの内容やまちづくりを決めていくことになる。地域の自治のあり方が大きく変わることが一番の変化と認識している。